

# 第7回北東アジア港湾局長会議の結果について ～「北東アジアクルーズの振興についての3ヶ国協力の方向性」が確認されました～

[Home](#)

平成18年11月6日

11月6日(月)に、第7回北東アジア港湾局長会議が、下記の通り開催されましたので、結果についてお知らせします。

今回の会議では、過去3年間の共同研究の結果について報告が行われるとともに、「北東アジアクルーズの振興についての3ヶ国協力の方向性」について共通認識を得、行動計画が提案されました。また、次期共同研究のテーマについても承認されました。

## 1. 日時

平成18年11月6日(月) 午前10時45分～17時00分

## 2. 場所

三田共用会議所  
東京都港区三田2-1-8

## 3. 出席者

- ・ 日本: 中尾成邦 国土交通省港湾局長 他
- ・ 韓国: ユン・ビョンゴウ(Yoon Byeong-Goo)韓国海洋水産部港湾局長 他
- ・ 中国: ペン・クイホン(Peng Cuihong)中国交通部水運司 副司長 他

## <オブザーバー>

- ・ ロシア: エフゲニー・トルーニン(Evgeny Trunin)ロシア運輸省海上・河川輸送庁副長官 他

## 4. 主な議題

- ・ 「北東アジアクルーズの振興についての3ヶ国協力の方向性」
- ・ 共同研究の結果報告
  - 港湾施設の信頼性設計法の研究
  - 北東アジアにおける港湾投資の促進と FTZ のモデル研究
  - 北東アジアにおけるクルーズの振興策
- ・ 次期共同研究の承認

## 【参考】

### ○北東アジアクルーズの振興についての３ヶ国協力の方向性

今回の北東アジア港湾局長会議において、クルーズの振興を日中韓の３国で行うこととなり、「北東アジアにおけるクルーズ振興についての３ヶ国協力の方向性」について共通認識を得ました。

今後、クルーズ船の誘致などを３国共同で行うとともに、各国の観光、港湾、海事、航空行政のみならず、クルーズ船社、旅行業界などが参加する北東アジアクルーズ協議会（仮称）の設置などに向け、３カ国で協力していくことを確認しました。（提案された行動計画は別紙参照）

また、これに関連して、２００７年３月には、マイアミにおいて開催される世界最大規模のクルーズコンベンションに、３国共同で出展することとしております。

### ○次期共同研究

２００７年～２００９年の３カ年に以下の共同研究を実施することが合意されました。

#### （１）緊密な港湾協力の促進

効率的でシームレスかつ低廉なアジアワイドの物流ネットワークを構築し、その便益を実現するために必要な北東アジアにおける国際海上物流ネットワークの促進策や北東アジアにおける“港湾連携”の実現等に向けた調査を行います。

#### （２）シルテーションと浚渫土管理

河川、河口、沿岸部における粘性堆積物のシルテーションによる港湾の被害状況の調査を行い、シルテーション緩和策の適用性評価を行います。併せて浚渫土の有効利用に関する検討を行い、それらの経験に基づいて提言を行います。

#### （３）北東アジアにおける台風防災対策

台風時に観測された気圧、風、波浪、潮位などのデータを解析し、台風時の気象や海象を究明します。また、波浪や高潮を計算する数値計算モデルの高精度化を図るとともに、港湾関係者にデータ提供するシステムの改良を行います。

### 北東アジア港湾局長会議の概要

北東アジア港湾局長会議は、各国の港湾の発展のため、港湾行政全般にわたり広範に意見交換を行うとともに共同研究を実施すること、各国港湾関係者の友好関係の増進等を目的としています。

１９９５年から１９９９年までの５年間、韓国政府の港湾担当部局との間で開催していた日韓港湾局長会議を発展的に解消し、２０００年より中国を加えた３カ国で開催されてきました。

各国の代表は、日本国国土交通省港湾局長、大韓民国海洋水産部港湾局長、及び中華人民共和国交通部水運司長です。

なお、ロシアについては、オブザーバーとして参加しています。

## 「北東アジアクルーズの振興」行動計画の提案

日本、中国、韓国は 2004 年から 2006 年に行った共同研究により、北東アジア地域のクルーズの潜在能力の高さについて共通の認識を持った。この共通理解から、北東アジア地域を世界に通用するクルーズの寄港地、目的地として宣伝し、3 国が連携して「北東アジア地域のクルーズの振興」に関連する機関と協力することを提案した。提案された行動計画は以下のとおり。

### (1) 1 年目

- ・「北東アジアクルーズ協議会（仮称）」設立に向けた準備  
「北東アジアクルーズの振興」を目的に、日中韓 3 国で連携を図るための協議会設立に向け、試験的体制を構築する。
- ・船社向け情報発信  
船社向けにクルーズの日中韓三国の港湾を紹介するパンフレットを作成し、情報発信する。パンフレットには港湾の周辺観光資源、アクセス、ターミナルの施設規模、ポートチャージ、港湾管理者の連絡先等を掲載するとともに、港湾の写真等を掲載する。

### (2) 2 年目

- ・観光、海事、航空関係者との連携拡大
- ・「北東アジアクルーズ協議会（仮称）」の組織化  
「北東アジアクルーズの振興」を目的に日中韓 3 国での連携を図るための協議会を組織する。
- ・各港の紹介資料をホームページへ掲載

### (3) 3 年目

- ・クルーズシンポジウムの共同開催
- ・ポータルサイト立ち上げ（予約窓口のワンストップ化）